

令和4年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

| | | |
|---------------|------------------------------|------|
| 団 体 名 | 公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立文化産業交流会館 | |
| 施 設 名 | 滋賀県立文化産業交流会館 | |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 公演事業・人材養成事業・普及啓発事業 | |
| 内定額(総額) | 12,912 | (千円) |
| 公演事業 | 8,618 | (千円) |
| 人材養成事業 | 1,992 | (千円) |
| 普及啓発事業 | 2,302 | (千円) |

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|---|---------------------|---|---|-----|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 長栄座伝承会「むすひ」 ～東西を結び 刻(とき)を結び 乾坤(あめつち)を結ぶ～ | 1. 令和4年7月30日 (土) | 演目 【第1部】「(邦楽アラカルト)湖国神在祭～むすひの芸能選～」 【第2部】駅名連歌「まいばらはつ」 (JR 東海道線:米原駅～名古屋駅) 【第3部】「響鳴～日本三大弁財天と宇賀神将十五王子～其二(巖島弁財天)」 | 目標値 | 740 |
| | | 2. 令和4年7月31日 (日) | | 主な出演者: 杵屋佐吉、杵屋浅吉、野村祐子、成世昌平、(7/30): 天王寺楽所雅亮会、(7/31): ルトヴィート・カンタ(チェロ)、麻植美弥子・麻植理恵子(箏)ほか 主なスタッフ: 久保田敏子(監修・京都市立芸術大学名誉教授)、中村豊(企画・構成・演出)、早川鉄兵(舞台美術)ほか | 実績値 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|-------------------------------------|--|---|----------|-----|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 滋賀県次世代創造発信事業 邦楽専門実演家養成事業 | 稽古:令和4年11月～ 令和5年2月まで 定期公演:2月12日 (日) | A: 箏アンサンブル習得コース (10名参加) B: ユース箏アンサンブル習得コース (35歳未満) (2名参加) C: 現代演奏コース (音楽大学邦楽科卒業レベル) (5名参加) | 目標値 | 21 |
| | | 稽古: 滋賀県立文化産業交流会館 定期公演: 米原学びあ いステーション | 主な演目: 「花筏」沢井忠夫 作曲、 「夢採集」四反田素幸 作曲、「脆性 ノスタルジア」冷水乃栄流 作曲ほか 主な出演者: 養成事業修了生、客演: 滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」、饗 場凱山(尺八) 主なスタッフ: 久保田敏子(監修)、講 師: 野村祐子、池上眞吾、片岡リサ、吉 澤延隆 | 実績値 | 17 |
| 2 | 滋賀県次世代創造発信事業 アートマネジメント人材 養成講座 | 令和5年2月23 日(木・祝) | タイトル: 地域の文化資源の劇場へ の活かし方～竹生島を題材に～ 「芸能とは何か～古典芸能の楽しみ 方」 | 目標値 | 30 |
| | | 滋賀県立文化産業交流 会館 第1会議室 | 講師: 小林昌廣(情報科学芸術大学 院大学教授) | 実績値 | 32 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|--|--|---|----------|---|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 滋賀県次世代創造発信事業 親子で楽しむ日本の伝統 芸能 2022 | 令和4年8月3日(水) | 【第1部】「親子で一緒にワークショップ体験」①落語(講師:林家染太) ②箏(同:日原暢子) ③日本舞踊(同: 花柳祿春奈) 【第2部】「講師による古典芸能の披 露」:林家染太(「桃太郎」オリジナル 落語)、日原暢子(「六段の調」「さく ら」「線香花火」「讃歌)」、花柳祿春 奈(「黒髪」「供奴」) | 目標値 | 300 |
| | | 公演:滋賀県立文化産 業交流会館イベントホ ール内特設舞台「長栄 座」 ワークショップ体験: 当館小劇場・練習室 1・2 | | 実績値 | ※公演 77、ワークシ ョップ 26(落 語 5・箏 13・日本 舞踊 8) |
| 2 | 滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワークシ ョップ | 稽古:令和4年8月か ら11月まで 成果発表会:11月13 日(日) | 演目:日本舞踊「花ばたけ」「絵日傘」 「こうのとりの藤娘」、箏「さくら さくら」「みずうみの詩」 講師:箏:田中久美子、橋本桂子、田中 千鶴、島田彩寧、片岡リサ(監修) 日 本舞踊:花柳風春、花柳風弥 | 目標値 | 40(箏 20、日本 舞踊 20) |
| | | 滋賀県立文化産業交流 会館 小劇場・練習室 1・2 | | 実績値 | 41(箏 19、日本 舞踊 22) |
| 3 | 滋賀県次世代創造発信事業 箏曲ジュニア・アンサン ブル | 稽古:令和4年7月か ら11月まで 成果発表会:11月13 日(日) | 演目:「グリーン・ウインド」第1・ 3楽章 講師:片岡リサ(大阪音楽大学邦楽科 特任准教授) | 目標値 | 8 |
| | | 滋賀県立文化産業交流 会館 小劇場・練習室 2 | | 実績値 | 6 |
| 4 | 滋賀県次世代創造発信事業 和のじかん | 実施期間:令和4年10 月~令和5年2月 計 13校 | 内容:学校アウトリーチ ・楽器の説明、奏法の説明 ・解説を交えた演奏 (さくら、春の海、六段の調べなど) 派遣アーティスト:片岡リサ(箏)、吉 澤延隆(箏・十七弦)、ゆらぎ〔伊藤志 野:箏、岩本みち子:尺八〕 | 目標値 | 10校(約 500人) |
| | | 県内の小中学校 | | 実績値 | 13校(779 人) |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

| 自己評価 |
|---|
| <p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> |
| <p>〈事業の組み立て〉当館が立地する湖北地域の文化資源および当館の多目的施設の特性を活かし、文化芸術の継承、創造、発信の場となることを目指し、イベントホール内に特設舞台として芝居小屋を約1週間設営して行う「長栄座」公演をはじめ、古典芸能事業を次のとおり段階的に体系立てて実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="159 548 1481 728">1 「普及啓発事業」…県内の小中学校に邦楽演奏家が出向き児童生徒に箏・尺八を体験してもらう「和のじかん」、落語・日本舞踊・箏の体験と鑑賞の機会を提供する「親子で楽しむ日本の伝統芸能」、小学生が箏・日本舞踊の稽古を重ねその成果を発表する「古典芸能キッズワークショップ」、そのワークショップ修了生による「箏曲ジュニア・アンサンブル」を展開した。<li data-bbox="159 739 1481 817">2 「人材養成事業」…プロを目指す演奏家を育てる「邦楽専門実演家養成事業」、地域資源を劇場でどう活かすかをテーマとした「アートマネジメント人材養成講座」を実施した。<li data-bbox="159 828 1481 907">3 「公演事業」…芝居小屋情緒のなかで、古典芸能と様々な分野の芸術がコラボレーションした自主制作公演を開催した。 <p>〈事業の推進〉新型コロナウイルス感染症対策を講じて当初の計画通り1～3の各事業を実施することができたが、特に「長栄座」公演は、新作公演の魅力を浸透させるのに力不足で集客面においては厳しい結果となった。しかしながら、本県にかかわる日本三大弁財天や交通の要衝であることをテーマとしたこと、また本県出身・在住の作曲家や切り絵作家を起用したことで地域文化の発信につながっている。</p> |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> |
| <p>〈文化的意義〉「和のじかん」では、「指遣いや息遣いを知り、また実際に弦を押さえる体験をすることで、箏を弾く授業への関心意欲が高まった」と先生から伺った。「箏曲ジュニア・アンサンブル」の参加者から、邦楽の専門課程のある大学への進学を考える高校生も現れてきた。日本舞踊の「キッズワークショップ」修了生からの要望で、令和5年度から当館文化センターの文化講座に「中高生のための日本舞踊教室」を新設するなど、当館事業を通じて次世代が古典芸能に関心を持つ機会となっている。また、「長栄座」公演は、古典芸能の魅力を知ってもらうため、入場料金を抑えても質を落とさず古典芸能と他の芸術分野とのコラボレーションなど気軽に足を運んでいただけるように演出し、観客のすそ野の拡大に努めた。</p> <p>〈社会的意義〉「コロナ禍で大変だが文化の灯を守るため頑張ってもらいたい」という声を観客からいただき、来場者や参加者に心の潤いや安らぎのひとつとなり、芸術文化の魅力やその意義を伝える機会となっている。また、湖北地域の文化資源を活用することで地域コミュニティの創造にもつながっている。子どもたちには、箏や日本舞踊を通して、礼儀作法など日本の伝統文化の魅力や豊かさを伝えている。</p> <p>〈経済的意義〉「長栄座」公演において、各駅の名所・旧跡などを織り込んだ第2部「駅名連歌まいばらはつ」、日本三大弁財天をテーマにした第3部「響鳴」は、地域資源を盛り込んだ全国に発信できる内容で、「今まで素通りしていたが、米原の見方が変わった」とのご意見もいただき、県内唯一の新幹線停車駅である米原駅で下車するなど県外からの本公演での来場者は約3割となっている。関連企画として行う「近江のあたらしい伝統産業展」では、長浜市木之本の和楽器弦など滋賀の伝統的工芸品や地場産業商品などの展示・販売で多くの人で賑わい、伝統芸能と伝統産業の結びつきを通して地域経済の活性化につながっている。また、本公演への協賛企業・団体は昨年より6件多い19件となり本事業を支えていただいている。</p> |

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

下記の5つの実施方針を目標に掲げ事業を実施した。成果は次のとおりである。

〈1. 文化芸術の発信〉

前年度から「長栄座」公演は、新しい演出家を迎え、3年計画で“次世代に繋ぐ”や“新たな誕生”などを意味する「むすび」をテーマに、古典芸能や様々なジャンルの第一線で活躍する奏者、演者や地域の演奏者などが芝居小屋「長栄座」に集結し、地域、時間を結んでいくというコンセプトで公演制作を行った。令和4年度は3年計画の2年目となり、演目や内容も継続性を持たせ、最終年に繋げられるように、これまで培ったノウハウと演出家の発想を融合し、多彩なジャンルのコラボレーションプログラムも取り入れて上演した。両日とも入場者数は伸び悩んだが、アンケート結果を見ると特に初日は「初めて」の来館者が35%、県外からの観客が37%であり、“様々な地域を結んでいく”という狙いはある程度達成できた。公演内容も滋賀に題材を採ったものと、金沢など他県の出演者のものもあり、県外のお客へ滋賀をアピールすると同時に、他県の演目を滋賀県のお客様に伝える役目も果たし、古典芸能の新たな創造性を発信することができた。

〈2. 文化・芸術資源の発掘と活用〉

「長栄座」公演では、地元合唱団と共演することで地域とつながる機会となり、また、当館で養成する滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」の出演は、これまで当館がワークショップや養成事業などで地道に人材養成を積み重ねてきた結果が発揮された。また、文化芸術の普及啓発を図る目的でアーティストを学校へ派遣するアウトリーチ事業「和のじかん」では、令和3年度より和楽器奏者に限定しているが、コロナ禍にもかかわらず学校の要望も強く、13校に派遣し多くの児童・生徒に音楽を身近に届けることができた。

〈3. 文化と産業の連携〉

「長栄座」公演の開催に合わせ、当事業の趣旨である伝統の継承を産業面から振興・支援を目的に「近江のあたらしい伝統産業展」を実施している。前年度から地場産業に加え、県や市の産業関連部署などと連携を図り出展を誘致することで、前年度と同数の18団体（前々年度10団体）に出展いただくことができた。

〈4. 文化・芸術活動の支援と人材育成〉

次代を担う小中学生を対象にしたワークショップ（箏・日本舞踊）、中堅演奏家のキャリアアップを目的にした講座や実践研修を実施し、地域文化の担い手の育成に努めた。

〈5. 活動と交流の拠点創出〉

「古典芸能キッズワークショップ」「箏曲ジュニア・アンサンブル」「邦楽専門実演家養成事業」と系統立てて実施することで、若手古典芸能実演家や次代の担い手の活動拠点となった。また、多様な事業を実施することで老若男女が集う交流の場を提供できた。

主な指標の成果

(1) 公演事業

- ①2日間公演の入場者数740人の目標に対し、405人。コロナ感染拡大の影響が大きい時期であり目標を下回った。
- ②新規顧客入場率35%の目標に対し26%（7/30 35%、7/31 17%）。コロナ感染拡大の影響が大きい時期で目標を下回った。
- ③人材養成、普及啓発事業の若手演奏家の出演15人の目標に対し12人。目標には届かなかったが、修了生は意欲的で、自発的に様々なアイデアを出し、演出家や他の演奏家との協働作業に熱心に取り組んだ。
- ④地元文化団体の出演2団体の目標に対し1団体。演出の都合上1団体となった。

(2) 人材養成事業

- ①養成事業から「長栄座」公演への出演者数8人の目標に対し12人。目標を上回った。
- ②養成事業「修了演奏会」の出演者数16人の目標に対し17人。目標を上回った。
- ③「ユース箏アンサンブル習得コース」の受講者2人の目標に対し2人。目標どおりであった。「現代演奏コース」の受講生6人の目標に対し、5人。ほぼ目標どおりであった。
- ④「アートマネジメント人材養成講座」の参加者数30人の目標に対し、33人。目標を上回った。

(3) 普及啓発事業

- ①「親子で楽しむ日本の伝統芸能」公演の各ジャンル（落語、日本舞踊、箏）のワークショップ（1日体験教室）の参加人数目標を各10人としたが、落語5人、日本舞踊8人、箏13人となり箏のみ目標を上回った。
- ②「古典芸能キッズワークショップ（箏・日本舞踊）」の各分野参加者20人を目標としたが、「箏」19人、「日本舞踊」22人。ほぼ目標どおりであった。
- ③「古典芸能キッズワークショップ」卒業生の「箏曲ジュニア・アンサンブル」への継続参加8人の目標に対し、7人。目標に1人達しなかったが、参加者は技巧的に難しい曲に取組み、発表会で披露した。
- ④「和のじかん」の実施10校（500人）の目標に対し13校（779人）。目標を達成した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

〈公演1：長栄座伝承会「むすひ」〉

当初から3年計画でテーマを定め、本年はその2年目にあたることから計画的に準備を進めることができた。コロナの影響により座席設定をこれまでの440席から300席とした。収入減とはなるが感染症対策を講じて来場者にとって安心・安全の環境を整えることを優先した。また、収支の改善を図るため入場料設定を上げたが目標には達しなかった。

| 4月 | | 5月 | | 6月 | | 7月 | | | |
|------------|-----------------------|------|------------|--------------------|-----------|------|------------|-----------|-------------|
| 舞台映像 撮影 | ダンス (第1部)リハ ーサル | 記者発表 | 稽古音源 録音 | 書道作品 (背景) 選定 | 舞台打合 せ | プレ企画 | 芝居小屋 設営 | リハーサ ル | 「むすひ」公 演 |
| | | | | | | | | | |

〈人材養成1：滋賀県次世代創造発信事業 邦楽専門実演家養成事業〉

大雪の影響で計画どおりに稽古を進めることが出来なかったが、自主練習の機会を設け無理のないスケジュールで事業の推進に努めた。2月の成果発表公演は舞台照明設備改修工事と重なったため、会館に隣接する米原学びあいステーション大ホールで実施した。会館として初めての取り組みであったが、円滑に進める事ができ、今後の事業展開にも応用できる機会となった。

〈人材養成2：滋賀県次世代創造発信事業 アートマネジメント人材養成講座〉

講師選定や内容の決定に時間を要し、当初の計画より1ヵ月遅れての実施となったが、定員を超える参加があった。当初は複数の講師で実施する予定であったが、1名となったため、事業費は当初の申請額を下回った。

〈普及啓発1：親子で楽しむ日本の伝統芸能〉

体験教室の募集期間は1ヵ月程であったが、筆が定員を超える応募があり、普段、日本の伝統に触れる機会の少ない親子にとって一日体験教室という気軽さが好評であった。また、講師による古典芸能を芝居小屋「長栄座」で披露をいただいた。ただ、これまで入場無料としてきた舞台を今年度より500円に有料化したこともあり、入場者は目標に達しなかったが、熱心に鑑賞する親子の姿が多く見受けられた。なお、講師の演技は特設舞台での公演のため、照明演出や舞台転換が伴い、舞台技術委託料が増加した。

〈普及啓発2・3：滋賀県次世代創造発信事業「古典芸能キッズワークショップ」「箏曲ジュニア・アンサンブル」〉

キッズワークショップの日本舞踊において、難曲にチャレンジしたため稽古日を追加して成果発表公演に挑んだ。演出の簡素化による舞台スタッフの減により、事業費は当初の申請額を下回った。

〈普及啓発4：滋賀県次世代創造発信事業「和のじかん」〉

滋賀県教育委員会を通じて実施校を募集し5月から日程調整を図り、概ね計画通りに進めることができた。募集要項印刷費の減により、事業費は当初の申請額を下回った。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

〈古典芸能公演制作の歩みと課題〉

当館は、平成23年度から12年間にわたって古典芸能分野において地域の文化資源をテーマにした企画をイベントホール内の特設舞台、芝居小屋「長栄座」で制作している。令和3年度からはこの企画の方向性や基本コンセプトを決定づける作詞家、作曲家、出演者の選定には、当館の意向を踏まえ、監修で舞台芸術アドバイザーの久保田敏子（京都市立芸術大学名誉教授）と演出の中村豊が尽力してきた。企画を決定するにあたり令和2年度までを振り返り、課題となっている2つの点についても新たな方向性で克服できないかを検討した。

課題の1つは地域色の豊かな題材が地域住民にも新鮮な魅力あるものとなり、どのようにしたら自分たちの郷土への誇りを感じてもらえるような舞台芸術作品に仕上げられるかであった。もう1つはこれまでも制作初演した演目はあるが、再演されず一度だけの上演で終わっているものが大半であった点である。

〈課題解決に向けて〉

その課題への一つの方策として「長栄座伝承会むすび」公演では、地域の文化資源をローカルな視点で取り上げるだけでなく、神奈川（江ノ島）、広島（厳島）、滋賀（竹生島）、金沢の4つの地域を結びつける仕掛けと枠組みを構築しようという意図をもって制作してきた。そのねらいは、少しずつ実現され、令和3年度、4年度に制作初演した演目のうち、複数の演目が滋賀県内外で初演とは異なるアーティストによって様々なアレンジされながら再演され、今後も再演が持続可能なレパートリーとなりはじめている。具体的には日本三大弁財天をテーマにした『響鳴』の神奈川県江島神社での奉納演奏、「フラ&邦楽演奏」、「尺八&ダンス」『魂振』の金沢市、石川県立音楽堂邦楽ホールでの再演、和楽器コラボ『萌永-八千代獅子賛歌-』滋賀県、大津市伝統芸能会館での再演などである。

〈滋賀発の古典芸能コンテンツを全国へ〉

これらの実績が蓄積されていけば滋賀県内外での再演の仕組みが構築され、地域と地域をつなぐネットワーク形成の足掛かりとなる可能性が広がっていく。また、芝居小屋「長栄座」で制作された演目と再演ごとに新たな共演アーティストが各地に拡散していく形態は、劇場側がお膳立てした定番の出演者での大掛かりなパッケージ公演＝巡回公演などではない、より緩やかでコンパクトな地域ごとにカスタマイズ可能な再演スタイルでもある。

滋賀の文化資源を基にした企画が滋賀から発信され、全国各地で再演され、評価されることでアナウンス効果が生まれ、結果として県民の誇りにつながるといった好循環をつくっていくことこそ、当館の地域の文化拠点としての使命であると再認識している。これからも当館は地道に古典芸能の新作に挑戦し、令和3年度「地域創造大賞」（総務大臣賞）の受賞を励みに地域発のコンテンツを創作発信し、地域の文化拠点としての存在価値を高めることに努めていく。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

〈長栄座むすひ公演での成果〉

第1部は「＜邦楽アラカルト＞～湖国の神在祭」と題し、邦楽や多ジャンルのコラボ作品などを披露。滋賀県出身の作曲家、中村典子（京都市立芸術大学准教授）の新作「萌永」と星谷文生（福井大学准教授）の新作「水滸唱歌」を初演した。

第2部は「駅名連歌～まいばらはつ」。米原～名古屋の駅名や名所を読み込んだ歌をプロ邦楽演奏家、民謡歌手などと滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」、彦根児童合唱団の混成チームで披露。「駅名」の公募書道作品を映像で紹介。

第3部は「響鳴～日本三大弁財天と十五王子」シリーズの2年目。昨年度の「江ノ島弁財天」は萩岡松韻（東京藝術大学教授、令和3年度日本芸術院賞受賞、令和5年度紫綬褒章受章）が作曲し、今年度の「叡島弁財天」は杵屋佐吉作曲で、演奏の軸は今注目の若手長唄演奏家たちが担い、アンケートには「ここは国立劇場か？と思った」という声も寄せられた。舞台美術は米原市在住の早川鉄兵の切り絵で彩った。

【外部評価1：森西真弓 大阪樟蔭女子大学名誉教授】

湖北という地域性を重んじ、「邦楽」に重点を置いた企画内容は高く評価される。さらに、「長栄座」というかつての芝居小屋の文化を継承した姿勢も公演内容に合致している。盛りだくさんな番組で、新しく作詞、作曲を委嘱し、稽古を重ねて本番、というプロセスを考えると「大事業」だと思う。

【外部評価2：真鍋晶子 滋賀大学教授】

これだけ多彩なプログラムを準備されたので、湖東湖北の地域の人たち、少し広く考えて滋賀県、さらに少し広げて近隣府県の人たちに、多彩な古典芸能を提供し、その文化意識を高め、古典芸能への興味を喚起することで、今後、長栄座の事業をより活発なものにする原動力となる人々はある程度生み出されてきたと期待する。また、地域の伝統工芸品・特産物のロビーでの展示・販売も意義深い。地元の人であれ、県外の人々であれ、自ら購入し、その良さを体験して、県内外の人々へ広める機会となったと思われる。

〈人材養成事業での成果〉

「邦楽専門実演家養成事業」では、野村祐子（名古屋芸術大学客員教授）、池上眞吾（東京藝術大学非常勤講師）、片岡リサ（大阪音楽大学特任教授）、吉澤延隆（東海大学非常勤講師）の4人を講師に迎え、中堅・若手の邦楽演奏家（箏・三味線・十七絃）の技術向上を目的とし、約4ヶ月間、月に2～4回の稽古を重ね、修了演奏会への出演で経験を積み、プロ演奏家としてのキャリア形成を図った。受講生の内1名が、2022年利根英法記念邦楽コンクール【一般の部】へ出場。2023年利根英法記念邦楽コンクール【中学生までの部】には滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」メンバーの指導する中学生1名が出場した。また「しゅはり」メンバーの2名は中学校、高校箏曲部の外部講師にも着任し、今まで学んだことを地域へ還元することで地域貢献にも寄与している。

「アートマネジメント人材養成講座」では、小林昌廣（情報科学芸術大学院大学教授）を講師に迎え、様々な形で取り上げられている古典芸能演目「竹生島」などの地域資源に劇場はどうアプローチすべきかを考察した。

〈普及啓発事業での成果〉

「古典芸能キッズワークショップ」において箏と日本舞踊の2コースで小学生を対象に約4ヶ月間にわたって技術や礼儀作法などを実技指導し、成果発表会を実施。NHK 大津放送局は稽古から発表会まで長浜市在住の小学生が日本舞踊に取り組む姿を長期密着取材によりクローズアップし、放送した。この報道によって子どもたちの成長過程が地域住民にも伝わり、次世代育成に貢献していることが再認識された。

また、上達を目指す子どもたちには、「箏曲ジュニア・アンサンブル」コースを受講することで小学生から一般まで一貫して箏が学べる環境を整備し、講師には、片岡リサを迎え、将来の湖国滋賀の邦楽界をリードできる人材育成に努めている。

「親子で楽しむ日本の伝統芸能」の第1部では小学生とその保護者を対象にした子どものための落語、日本舞踊、お箏の一日体験教室を開催した。また、第2部では落語家の林家染太、日本舞踊家の花柳緑春奈、箏曲演奏家の日原暢子（令和4年度文化庁芸術祭新人賞受賞）3名の講師がそれぞれの古典芸能を披露した。子どもたちと保護者に一日限定で体験教室とプロの実演の醍醐味の両方を体感してもらうことで古典芸能への好感度を向上させることができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

〈事業運営〉

当財団では、滋賀県文化振興条例および滋賀県文化振興基本方針に則り、舞台芸術をはじめとする芸術文化を振興する公益財団法人として、文化産業交流会館およびびわ湖ホール of 県立 2 館の劇場を有機的に活用して、様々な分野と連携を図るとともに、県と密接な関係を基盤に運営を行っている。また、滋賀県文化振興基本方針の基本目標の実現に向けて、中期経営計画を策定し、その方針を推進するための経営戦略ならびに具体的な事業計画および収支計画に基づき、定量的・定性的な目標が実現できるよう、進行管理を行いながら取り組んでいる。

〈経営戦略〉

当館においては、「県北部の文化振興を担う拠点としての賑わいの創出」を目標に掲げ、古典芸能を柱とした事業を展開し、施設や地域の特色を活かしながら県立の劇場・音楽堂としての使命を果たすべく、利用者・来場者のアンケート結果等も踏まえ各事業を評価・検証している。また、コロナ禍においても円滑に事業を推進できるように環境を整備し、オンライン会議やライブ配信などを行っている。財源確保については、平成 31 年度から財団に営業部を新設し、県域にわたる営業活動を当館およびびわ湖ホールと包括的に行うほか、びわ湖ホール友の会会員に当館の自主事業も案内するなど両劇場の相乗効果を図り、得られた収益等や経費縮減分を特定費用準備資金に積み立て、記念事業に充てている。また、公益法人、民間からの補助金等の獲得や、公益財団法人の優遇税制を活かした「夢キラリ文化基金」を設け、「伝統芸能」「次世代育成」等の事業への寄付の募集や事業に特化した協賛金などの取り組みを積極的に行っている。管理運営については、施設利用者へのサービスはもとより、令和 2 年度より新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じ、安全・安心な会館運営に努めている。また、施設の更新工事や修繕工事を行い、令和 4 年度には小劇場の照明改修工事を実施した。

〈人事戦略〉

職員の年齢構成や専門性等を勘案し、計画的な正規職員の採用に努め、滋賀県の文化振興施策を推進する専門的集団としての組織体制の強化を図り、当館では、令和 4 年度に事業課に 2 名正規職員を採用。また、舞台芸術アドバイザーと舞台技術アドバイザーを配し、注力している古典芸能事業の水準を高めるとともに、自主制作公演の内容充実、舞台技術のスキル向上と安全管理および組織の活性化を図っている。さらに、人事評価制度を導入し、職員自ら設定した目標の設定に向けて、職員が発揮した能力および業績を把握・評価することにより、組織の使命や目標の達成ならびに職員の育成や能力開発につなげている。加えて、OJT や外部講師による研修等を実施するとともに、外部研修会へも積極的に参加させ、職員の専門性を高め資格の取得やコンプライアンス意識の向上に努めている。

〈ネットワークの構築〉

市町ホール、文化活動者・団体、学校、企業など 207 団体と連携しながら事業を推進した。助成対象事業である学校アウトリーチでは、県教育委員会と連携し実施校を募り、邦楽演奏家と県内 13 校を訪問。古典芸能を通じて次世代育成の継続的な協力関係を築いた。

〈PDCA サイクルによる改善〉

自己評価シート、事業評価シート、来場者アンケート、現場から出た課題等を各種会議で共有し、改善を図っている。コロナ禍において、座席設定や演出方法などを、観客や出演者等の意見を反映しながら対応している。助成対象の公演事業では、客席が密であるという声が多く寄せられたことから、指定席としながらも特設舞台の利点を活かした配席システムを考え、チケット販売開始後であっても状況に応じて変化させる対応を図った。